

令和4年度 第11回 熊谷市総合戦略有識者会議議事録	
日時・会場	令和4年6月28日（火）13:30～ 熊谷市役所議会棟 2階 第1委員会室
次第	1. 開会 2. 議事 (1) 熊谷市の現状と総合戦略の取組状況について (資料1-1・1-2・2-1・2-2・3) (2) 本年度の取組について(資料4) (3) 第2次熊谷市総合振興計画後期基本計画について(資料5) (4) その他 3. 閉会
資料	<b>【資料1-1】</b> 令和4年1月1日住民基本台帳人口を踏まえた将来推計人口 <b>【資料1-2】</b> 第2期熊谷市人口ビジョン・総合戦略策定時の将来推計人口 <b>【資料2-1】</b> 第2期総合戦略の基本目標別のKPI <b>【資料2-2】</b> 転入・定住促進施策の取組状況 <b>【資料3】</b> 地域再生計画の成果について <b>【資料4】</b> 令和4年度の取組について <b>【資料5】</b> 第2次熊谷市総合振興計画後期基本計画策定方針
議事録	
委員	(1) 熊谷市の現状と総合戦略の取組状況 (2) 本年度の取組について ・事務局より資料に基づいて説明。 ・意見・質問は以下の通り。  (1) 熊谷市の現状と総合戦略の取組状況について 子育て支援団体に所属し若い世代と関わっていると、「転入前の自治体よりも熊谷市は子育てしやすい」という意見を聞く。また、現場で従事していても肌感覚として伝わってくる。しかし、資料2-1 3-2のまちづくり市民アンケート調査結果、子育て支援の数字を見ると58.7%という低い数字となっている。アンケート調査は幅広い年齢を対象としていると思うが、子育て世代に絞った数値を出した方が良いのではないかと思う。 「熊谷市には幼稚園に入ると遊びに行くところがない、幼稚園に入ってしまうと支援拠点を使いづらい。」という意見をよく聞く。 層によって意見が異なるということを改めて考えないと、子育て支援拠点の充実を図ることや数値を上げることに繋がらないのではないかと思う。
事務局	毎年度、3,000人を無作為に抽出しアンケート調査を行っている。回収率は3割を超える程度だが、そのうちの半分くらいの方が60～70代であると認識している。ターゲットを絞ったアンケートではなく、ずっとこの方法にて数値を出し

	<p>ている。</p> <p>第2期総合戦略を策定した際に、子育てをしている方に意見聴取を行った。その時に、熊谷は夏暑くて冬寒く、屋内で遊べる場所がないという意見を受け、子育て支援拠点の整備計画に至っている。引き続き皆さんの声を聴きながら施策を検討していく。</p>
委員長	<p>新しく計画している子育て支援拠点施設では屋内の遊び場も作れればと計画している。また、整備を予定している道の駅でも4歳以上のお子さんが遊べるような場所を創っていきたいと考えている。</p>
委員	<p>調査対象3,000人で回答率30%。さらに答えているのが60~70代。これがずっと反映され続けるとこの評価はいつまでも変わらないのではないかと。熊谷市は子育てしづらくなってしまった。もったいないと思う。</p>
事務局	<p>このアンケートは全年齢層を対象としている。年齢層ごとのアンケートも検討したい。</p>
委員	<p>市内で小児科をやっており、年齢別検診、集団検診、個別検診等を行っている。診ている側の感覚としても6割以上の方が子育てしやすいと思っているように感じる。市としてももっと子育てしやすいということをアピールすることが重要なのではないかと思う。</p>
委員	<p>資料2-1 就業機会を増やすについて、掲げられている数値は令和6年度の目標ということか。</p> <p>自身の仕事柄、廃業する方、廃業を考えている方からの相談が多く、廃業を思いとどまってもらうということが非常に大変であるという背景がある中、若い人の創業目標件数が5件というのはレベルが低いのではないかと思う。創業目標だけ掲げ、転入者を増やそうとしているのであれば、人口は減らないのではないかと。</p>
事務局	<p>目標は担当課と内部で決定している。こちらで把握できるものとして設定したが、現場をわかっていない部分もあるので、再度検討させていただき、目標となる数値を示せればと思う。</p>
委員	<p>この会議には、金融機関や商工会議所もいる。5件というのは目標が低いのではないかと思う。</p> <p>起業件数は法人に限定しているのか。商工会議所に毎月新入会員が20~30件いるのではないかと。金融機関でも5件は支援している。</p>
事務局	<p>目標件数については、市の創業支援事業として関わる数値としている。</p>

委員	<p>分母がわからないと関わり方がわからないのでは。5件関わったうち、5件についてはきちんと支援ができたという表現であればわかる。</p>
委員	<p>私は自治会長をしている。地区の平均寿命を試算したところ、男82、女88であった。</p> <p>この平均寿命をもとに今後どのくらいの方が亡くなるのか試算したところ、93世帯ある中、10年間で46人が亡くなる見込みである。20年間では90人が亡くなるという結果となった。よく限界集落という言葉があるが、自治会自体が消滅して空き家だらけになってしまうのではないかと懸念している。少子化の影響により仕方ないと思うが、そういう地域が他にもあるのではないかと思う。</p> <p>そうした中、私は健康増進のために『腸活』が良いのではと考えている。</p> <p>本市は、農業生産は県内5位となっている。腸活に必要な食物繊維は自給自足できるし、発酵食品や海藻を扱った企業も市内にある。こうした食品を腸活セットとして販売すればよいと思う。</p>
事務局	<p>農業分野の施策では、整備予定の道の駅は食のテーマパークを掲げている。農業については就農の支援にも力を入れている。農業分野にも力を入れていきたいと考える。</p>
委員長	<p>いただいた提案については、関係部署にも伝え、参考にさせていただきたい。</p>
委員	<p>結婚・出産・出生率の数値の向上については難しいと考える。出生率を上げるためには結婚する者を増やさなければならない。私は製造業で働いているが、女性の割合は1割程度である。社内でも独身者が多い。</p> <p>なかなか出会いの場がなく、本人たちは結婚したいと思ってもできないという現実がある。製造業ではどうしても男性が多い。熊谷で働く者同士が熊谷で生活していけるような取組をぜひ考えていただきたい。</p>
事務局	<p>若い人はマッチングアプリなどを活用していることもある。県では「恋たま」という事業を行っている。本庄市に事務局もある。熊谷市もその事業に加入して、結婚促進に努めている。恋たまにはAI診断というものがあるため、そういうものを紹介しながら結婚支援を進めていきたいと考える。</p>
委員	<p>会社内でも2人恋たまで結婚した。市報でPRしていなかったように思うが、そういった情報発信をしても良いのではないか。ボランティア活動などによる出会いの場を作るというのも計画していただけるとありがたい。</p>
委員長	<p>市としての取組みも考えたい。</p>
委員	<p>資料2-1の人口動態について、1,600人減っている。</p>

事務局	<p>結婚している人と子供を産んでいる人の数はそれほど変わらないとニュースで見たことがある。転入数を増やすことの方がハードルが低いのではないかと。コロナの影響によりリモートワークが注目され、移住が増えた。移住先として取り上げられるのは、熱海や鎌倉などである。熊谷は出てこない。熊谷という地名は知っているが、新幹線が停まるということ結構知らない人が多いと思う。自分は東京で働いているが、東京から35分で着くと言うと、「そんなに近いの!? ほぼ東京ではないか!?!」と驚かれる。</p> <p>もっとアピールできるとリモートワークで移住したいという人をもっともっと取り込めるのではないかと。公園の広さも十分であり、バーベキューもできる、施設もある、「知ってもらおう」というのが転入数を増やすきっかけになるのではないかと。</p> <p>皆さんによる口コミと、こちらでもアピール方法を考えていきたい。新幹線通勤の補助を始めたころはニュースとして取り上げられたが、さらに効果的なアピールを考えていきたい。</p>
委員	<p>産前産後ケアは非常に重要な取り組みであると思っている。本市は早期に取り組んでいただいていることありがたい。</p> <p>産後うつは3か月以降だったりする。それ以降だと支援制度を使えなかったの、伸ばしていただいたのはとても素晴らしい。結婚支援と子育て支援、両輪でやっていただきたい。</p> <p>産後ケアはあるが、“産前ケア”をやっているところはないので、産前ケアをお願いしたい。まだ第1子が小さいときに第2子を身籠ると精神的に弱っていることもある。親子をケアして子どもを増やすことにつなげるということを考えて欲しい。</p>
事務局	<p>担当課と検討したい。</p>
委員	<p>(2) 本年度の取組について</p> <p>資料4 シティプロモーション事業とは具体的にどのようなものか。</p>
事務局	<p>購読者数が全国に500万人いる「旅色」という旅冊子を活用して全国にPRしたいと考えている。全国的に知られたタレントを起用し、紙冊子だけでなく電子冊子、YouTubeによる動画配信を考えている。電子冊子は今時であり、効果的なプロモーションであると考えている。交流人口・関係人口拡大を目的とすることはもちろん、ふるさと納税の増額に繋げることも目的としている。</p> <p>掲載内容についてはこちらから様々な情報を提供し、その中から外部の目線として受託事業者ピックアップしていただきPRを行う予定。</p>
委員	<p>資料4 スマートシティについて、「くまぶら」アプリの活用とあるが、どのよ</p>

事務局	<p>うな事業か。立正大学に学生750人からなるデータサイエンス学部があり、データ収集・活用に力を入れているところである。</p> <p>スマートタウンについては実際に市街化区域の中でどこがスマートタウンにふさわしいか今年度検討する予定である。</p> <p>くまぶらについては、熊谷市公式のLINEを活用し、利用者の色々な情報を入手することが可能。こうして入手した情報をどのように活用することが可能か検討する予定である。この検討グループの中には立正大学の先生もいることから、一緒に協力しながら利活用を進めていく予定である。</p>
委員	<p>ものづくり大学もデータサイエンスの学部が立ち上がる予定である。</p> <p>熊谷は立正大学があり、ものづくり大学も近くにあるのでぜひ連携をしていただきたい。</p> <p>近隣で人口が安定しているのは滑川町の月の輪駅周辺、本庄市の本庄早稲田駅周辺である。深谷市も駅周辺ではないが、花園インター周辺に勢いがある。それと比べ熊谷は勢いがないように感じる。そこで、熊谷市は熊谷駅南側を開発することが良いと思う。橋1本渡れば東松山と繋がっている。ぜひ駅南側を重点的に開発していただきたい。籠原駅周辺も十分に開発の余地がある。ぜひ駅周辺を考えていただきたい。</p>
事務局	<p>担当課とよく検討したい。この後、総合振興計画見直しの説明を予定しているが、こうした中で、熊谷市の可能性について庁内でも議論したい。また、具体化できるものは進めていきたいと考える。</p>
委員長	<p>色々な意見をいただいた。持ち帰らせていただいて検討させていただきたい。</p> <p>続いて、熊谷市総合振興計画後期基本計画について事務局から説明を。</p>
事務局	<p>(3) 第2次熊谷市総合振興計画後期基本計画について</p> <p>資料5について説明。次回10月に本会議を開催し、皆さんからご意見を伺いたいと考えている。</p>
委員長	<p>都市マス、土地利用構想図など、総合振興計画に関わる部分も変わり、これらを反映していく予定である。また、市民参加ということであるべく多くの方から意見を伺いたいと考えている。</p> <p>素案ができた段階で有識者会議でも御意見を伺いたいと考えている。</p>
委員	<p>熊谷市は子育て支援について手厚いという話があったが、私もそのように認識している。</p> <p>子育てと言えば流山市が注目を浴びている。広報をうまくやっており、視覚に訴えるやり方である。ぜひ調べてみるとよい。</p>

<p>委員長</p>	<p>別の委員も言っていたが、熊谷市はポテンシャルはあるので、「あついぞ熊谷！」だけでなく、飲食店が充実しているなど、3～5分でわかるプロモーション動画を作成して見てはどうか。暑いだけではないということをうまく発信して欲しい。</p> <p>流山市が「母になるなら流山市」というキャッチフレーズで子育てを推進していることは知っている。発信をどのようにやったらうまくいけるかよく検討していきたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>流山市は広報部門に民間が入っている。広告代理店から専門家が市に出向しており、期間2年で迎え入れている。</p> <p>本市も大学があるため、民間も含め知恵を出して取り組んだ方が良い。</p>
<p>委員長</p>	<p>行政の仕事も多様化しており、事務を行うだけの既存の職員では力不足であると感じている。人事部門でも人材の補強を考えている。</p> <p>総合戦略において目標をもって施策を行っているが、人口減少に歯止めがかからない。</p> <p>コロナの影響もあってか、出生数にも影響が出ているように感じる。特効薬はなかなかないが、皆さんからの意見を参考に色々取り組んでいくしかないということを実感している。</p>
<p>委員</p>	<p>総合振興計画の見直しについて、昨年市長が変わったところだが、前市長の体制の中で作られた前期基本計画の一部見直しなのか、それとも小林市長が掲げる政策に基づき骨子を大きく変えるのかどちらなのかということが気になっている。恐らく後者になるのではないかと推測するが、そのために大島副市長も国交省から招いているのではないかと考えている。</p> <p>都市計画マスタープランが12年ぶりに策定され、まちづくりの見直しが行われた。これに対し期待するところは大きいと思っている。庁内でも大きく議論していただきたい。</p> <p>本市はスマートシティ、スポーツコミッションに取り組んでおり、いずれも県内で希少な市である。熊谷市に住んでもらうために具体的な発信を行った方が良い。</p> <p>熊谷市は若い女性の流出が多い。就業するために都心部に行ってしまう。産業の在り方をしっかり捉えて、就業の機会を創出して欲しい。こうした点から、総合振興計画も一部見直しとはいかないのではないかと感じているところである。</p>
<p>事務局</p>	<p>総合振興計画の見直しについて、行政の継続性を保ちながらも時代は刻々と変化していると認識している。デジタル化も加速度的に進歩しているため、時代の変化を見据えてリニューアルしたいと考えている。都市計画マスタープランの策定により土地利用構想も変わったことから、後期基本計画の策定に向け、議会の議決を見込んでいる。</p>

事務局	10月に皆様から御意見をいただけるようにしたいことから、日程が決まり次第連絡させていただきます。
以上	